

2024 (令和6) 年度
事業計画書

2024

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで

目次

CONTENTS

P.1～30

I. 事業計画の概要

1. 学校法人
2. 藍野大学
3. びわこリハビリテーション専門職大学
4. 藍野大学短期大学部
5. 明浄学院高等学校

P.31～

II. 2024年度 予算編成

I. 事業計画の概要

1. 学校法人

(1) 大阪阿倍野キャンパスにおける「AINO NURSE ISLAND構想」の推進

2024年度は、学校法人藍野大学大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第二期として、2025年4月1日に藍野大学短期大学部第一看護学科・専攻科（現大阪茨木キャンパス）と同短期大学部第二看護学科（現大阪富田林キャンパス）を統合し、大阪阿倍野キャンパスへの移転を進める。また明浄学院高等学校から藍野大学短期大学部及び藍野大学への接続強化を図り、学校法人藍野大学の建学の精神、教育理念、ミッションステートメントにもとづく人間教育に立脚した看護師養成課程における一貫教育を行い、大阪阿倍野キャンパスにおける看護師・保健師人材養成の拠点「AINO NURSE ISLAND構想」を推進する。

(2) 改正私立学校法に対応した寄附行為変更認可申請

2024年7月以降に行われる改正私立学校法（2025年4月1日施行）に対応した寄附行為変更認可申請を11月上旬に行う。

(3) 食品ロス廃棄ゼロエリアの継続的な実現に向けて（法人事務局総務センター）

2022年6月より、大阪茨木キャンパスの学生食堂において、食品ロス廃棄ゼロを目指し、取り組んできたが、2024年度もゼロエリアの継続的な実現に向けて、取り組みを進めていく。

①大阪茨木キャンパスで併設されているレストラン（当法人の関連企業が経営）を食品ロスゼロエリアに組み込む。

②学生食堂やレストランの調理場から出た食品廃棄物を活用した米ぬかぼかしづくりを行う。

生ごみ処理機から排出される食品廃棄物由来の液体は、肥料としての栄養価は高くないため、現状は市販の肥料と混合し使用している。

これを改善するため、食品廃棄物を活用した米ぬかぼかしづくりを行う。米ぬか自体が植物の育成に必要な窒素分（2～2.5%）、リン酸（4～6%）、カリウム分（1～1.2%）で成り立っているが、そこに食品廃棄物を活用し栄養価を高めることに挑戦する。また粉末にすることで水耕栽培での運用も可能か試す。

※食品廃棄物の半分は生ごみ処理機で処理いたします。

③2022～2023年度に実施した取り組みは改善しながら継続して行う。

イ. 食品ロスに関するアンケートの実施

食品ロスに対する意識を把握するために、それと、食品ロスを知る・削減に取り組むきっかけ作りのためにアンケート調査を実施。

ロ. 独自の食品ロス削減啓発冊子の制作・配布

学生・生徒、教職員が、食品ロスについて、知る、学ぶ、考える機会をつくるために独自の啓発冊子を制作し配布。

I. 事業計画の概要

ハ. 食品ロス削減 啓発パネルの設置

学生が集まる学生ホールなどに「食品ロスの問題を身近に感じる空間」をつくるため、啓発パネルを設置。(デザインは学生が行った。)

ニ. フードドライブ活動およびフードパントリー活動

食べ切れずに余っている未利用品を学生・生徒や教職員のご家庭で探してもらうことで、もったいないという気づきを与える機会として行う。

集まった食品は経済的に困窮している学生や、一人暮らしの学生、寮生に配布。

ホ. 学内連携による食事準備量の最適化

学校事務局から「学事・時間割・登校予測」を学生食堂に共有し、学生食堂が食事準備量の最適化を試みている。学校事務局からは金曜日に翌々週から 2 週間分の時間割・講義受講者数の情報を提供し、食事準備量を調整。

ヘ. 食べ切れるごはん量の設定

定食と丼ぶり、カレーライスのごはんの量を小盛・並盛・大盛の中から、学生が自ら考えて食べ切れる量を考えて選択。(小盛の利用状況約 2 割)

ト. 食事メニューサンプルの写真化

チ. 生ごみ処理機の活用

学生食堂から排出された食品廃棄物を生ごみ処理機で処理することにより、焼却(CO2)・埋立は削減。

リ. 食品廃棄物由来の液体肥料を活用した水耕栽培

生ごみ処理機より生成された液体肥料を活用し水耕栽培を実施。収穫した野菜は学生食堂に還元。

④他キャンパスへの食品ロス削減事業の拡大(本事業の横展開)

2024 年度より大阪阿倍野キャンパスでお弁当の小盛及びお弁当の事前予約による作り過ぎの抑制に取り組む。(2024 年度は学生食堂改修のため生徒の昼食はお弁当で対応)

(4) 広報戦略(法人事務局総務センター総務グループ)

2024 年 4 月から明浄学院高等学校の校舎が新しくなることを広報するため、「明浄学院高等学校新校舎 PR ムービー」の制作を行う。制作した動画は、学校法人藍野大学公式 YouTube、大学プレスセンター、オープンスクール等で公開することにより、広く PR する。

また、8 月に発行する広報誌アイノテにおいて、藍野大学大学院の健康科学研究科設置、びわ

1. 事業計画の概要

こりハビリテーション専門職大学の言語聴覚療法学科設置、明浄学院高等学校の衛生看護科設置、びわこ八日市キャンパスの開設等について取り上げ、ステークホルダーに本法人の取り組みを広報する。

さらに、昨年度に引き続き、学校法人パンフレット及び設置校最寄り駅への看板掲出等を行い、学校法人藍野大学の認知拡大を図ると共に、地域連携活動として、地域まつりへの協賛や滋賀県の八日市商工会議所青年部事業「East Rainbow」への看板協賛、全国中学校駅伝大会への広告協賛、大阪府高槻市を拠点に活動する女子サッカーチーム「スペランツァ大阪」へのバナー広告協賛等を行う。

(5) 人事計画（法人事務局総務センター人事グループ）

ア. ワーク・ライフ・バランスの推進

現在の社会では、誰もがやりがいを抱きながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護、家庭、自己啓発等を充実させ、健康で豊かな生活を送ることが可能な環境を整備することが求められている。

また、本法人においては、「教育投資に見合う面倒見の良い学校づくり」を進めるうえで、教育サービス、学修支援サービスを安定的に供給し続けることが肝要であり、そのためには、教職員が働きやすい環境の整備及び本法人への定着が必須である。そこで、2024年度においては、前述の教職員が働きやすい環境の整備推進を行うことで、教員の平均勤続年数を9年3か月以上、事務職員の平均勤続年数を9年5か月以上とする数値目標を設定する。

KPI	2024年度計画
教員の平均勤続年数	・9年3か月以上
事務職員の平均勤続年数	・9年5か月以上

イ. 事務職員の資質・能力の向上

本法人の経営基盤を安定させ、充実した教育サービスを学生・生徒に提供するためには、事務職員の資質・能力の向上が不可欠である。本法人においては、事務職員に対し、人事評価制度を導入しており、個々の業務実績を測ることが可能となっている。そのため、2024年度においては、人事評価の総合評価がB以上の者の割合を45%以上とすることを目指し、そのために必要なSD研修を実施する。

KPI	2024年度計画
人事評価の総合評価がB以上の者の割合	・45%以上

ウ. 事務職員の女性役職者比率の向上

我が国におけるジェンダーギャップ指数の総合順位は、146か国中125位であり、指導的地位に就く女性が少ないことが課題として挙げられている。また、「女性活躍・男女共同参画の重点方針2023」において、2030年までにプライム市場上場企業の女性役員比率を30%以上とすることが目標として掲げられた。本法人においても、事務職員における女性役職者比率は、約

1. 事業計画の概要

28%であり、同様の課題を抱えていると言える。そこで、2024 年度においては、事務職員の女性役職者比率を 30%以上とすることを目指し、そのために必要な環境整備等を行う。

KPI	2024 年度計画
事務職員の女性役職者比率	・ 30%以上

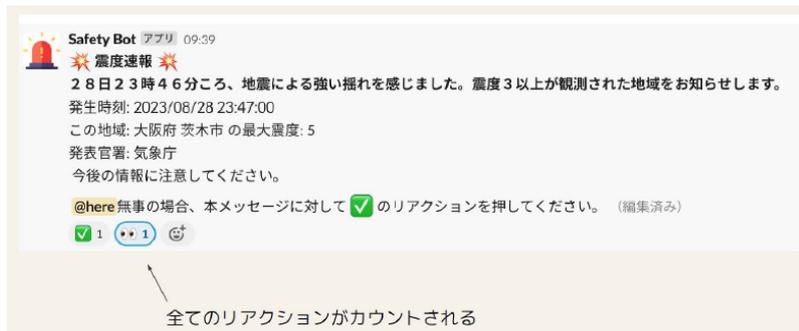
(6) コミュニケーションツール Slack の発展的利用（法人事務局総務センター総務グループ）

2022 年度から全学導入された、オープンコミュニケーションツール Slack を利用し、学生・生徒、教職員、学外の人々を繋ぐデジタルキャンパスとして、更なる安定的利用と教育やコミュニケーションの質向上、業務効率化を行う。

2023 年度に導入された Slack API を利用した安否確認システムの機能追加と安定的運用を行う。Slack bot が自動的に地震情報を受信し、エマージェンシー用チャンネルに安否確認情報の投稿、リアクションマークを利用して安否確認を行いリスト化する。確認が取れない者には、bot から個別にリマインドし、個別相談も可能になっている。

2024 年度には自動で各設置校・各学科別など詳細にリスト化できるようにし、より使いやすい仕組みを開発する。

震度 4 弱以上の地震が発生したら、
一般ユーザーは通知チャンネルでお知らせを受信



安否確認されていないか管理者が「通知」ボタンを押した場合、
未反応ユーザーにはダイレクトメールで通知される

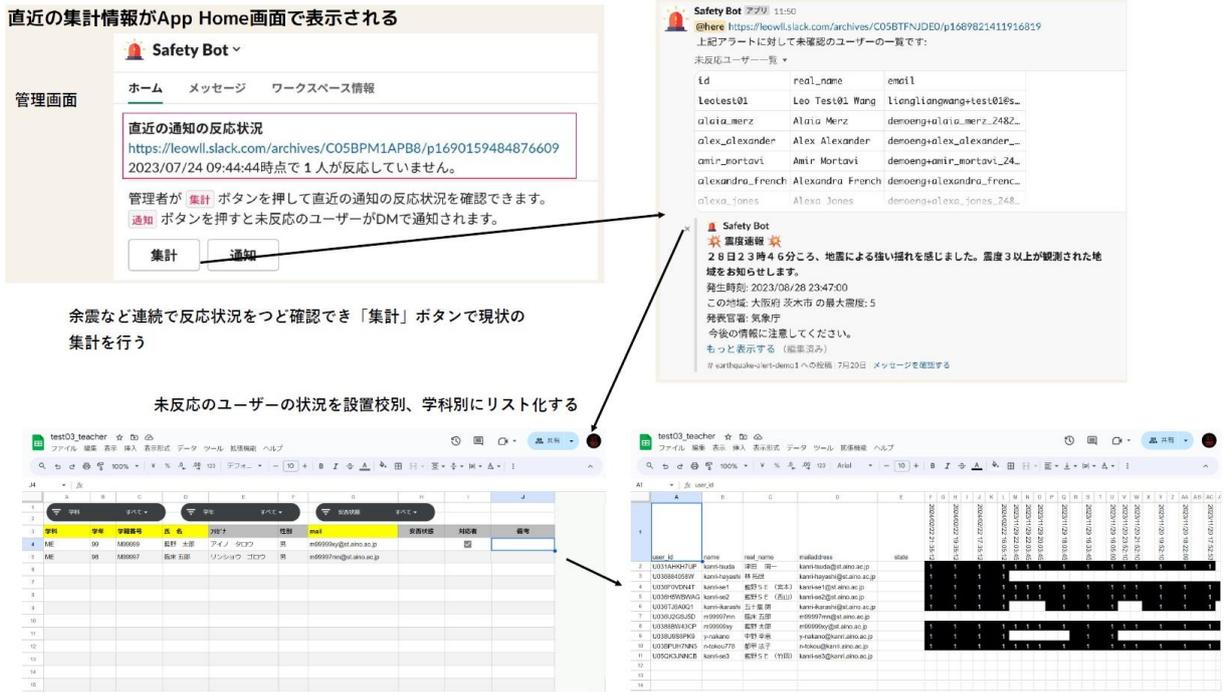


一般ユーザーにシンプルな画面を見せる



一般ユーザーが入力した内容が個別対応チャンネルで投稿される

1. 事業計画の概要



(7) 情報インフラネットワーク（閉域網システム Arcstar Universal One）の発展的な利用

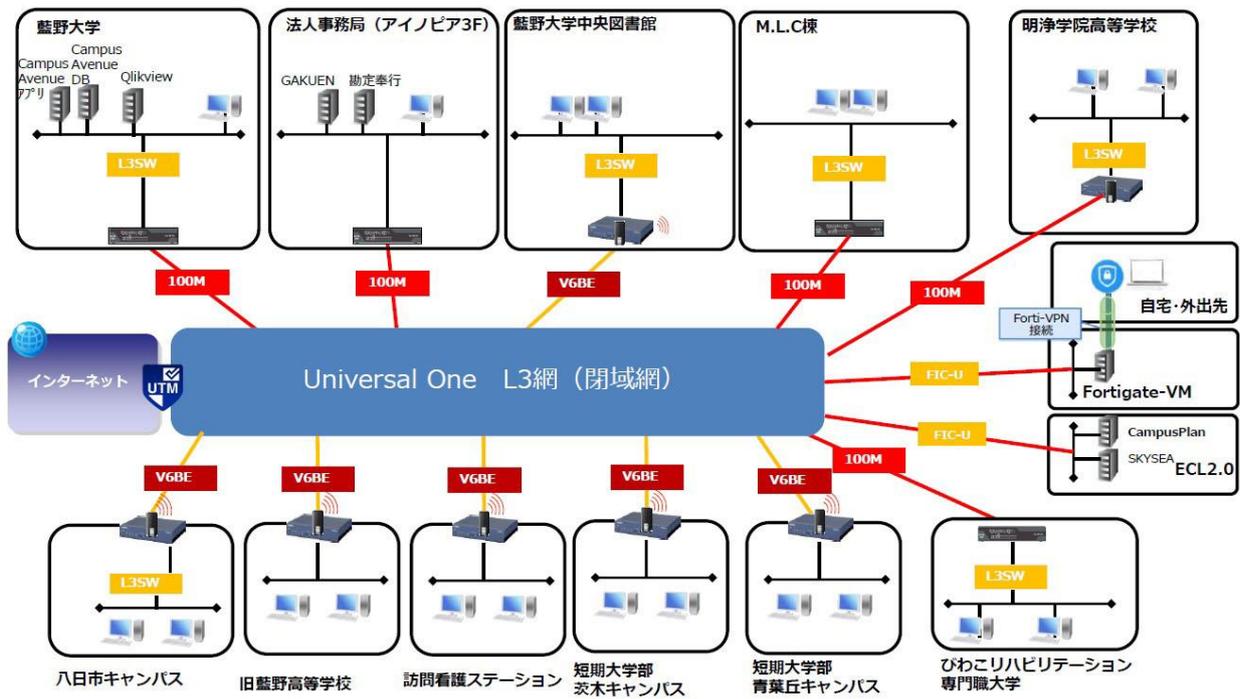
（法人事務局総務センター総務グループ）

本法人の基幹閉域網ネットワーク Arcstar Universal One（以下、「UNO」という。）は、外部からの攻撃は完全にシャットアウトし、一般通信網を通らない安心、安全な閉域網が運用されており、セキュリティ対策として UNO オプション機能の vUTM（仮想統合脅威管理）、VBBS（ウイルスバスタービジネスセキュリティ）を導入、侵入検知、侵入防止、出口入口対策、パターンファイルの自動更新など、一元管理ができるようになっている。

2020 年度以降、コロナ禍によりオンライン教育や Web 会議の需要が急速に高まり、当初、トラフィックの負荷が懸念されたが、UNO のインターネット接続機能による完全冗長化（二重化）した回線により安定した運用が実施できた。Windows アップデートに於いても、インターネット回線の輻輳対策を行っている。又、ウィズコロナ、アフターコロナ時代に求められるリモート環境の構築がされており、テレワークをする個人 PC からセキュアに本法人ネットワークに接続でき、多様な働き方を可能としている。2024 年度にはびわこリハビリテーション専門職大学八日市キャンパスと明浄学院高等学校新校舎も基幹閉域網ネットワークに追加される。また人的要因による事故や、不正アクセスなどによる情報漏えいなどのリスク低減を目指すため、認証されていないデバイスの接続を拒否する仕組みを構築する。

2017 年度に学生サービスの一環として各関連施設、設置校に導入された Free Wi-Fi は、学生、教職員共に好評であり、2023 年度現在多くのエリアで使用可能となっており、また接続状況等運用管理は CISCO Meraki クラウドソリューションによりブラウザ上で全設置校の Wi-Fi が一元管理できるようになっている。2024 年度は明浄学院高等学校新校舎や八日市キャンパスなど全館 Free Wi-Fi 完備となる。引き続きアクセスポイントの増設を行う。

1. 事業計画の概要



1. 事業計画の概要

2. 藍野大学

藍野大学は、建学の精神、教育理念、教育スローガン、シン・メディカルの理念などを総称して「藍野フィロソフィー」と呼び、開学以来のDNAとして堅持し、次代へ継承してまいります。2024年度は、開学20周年の節目の年となり、設立20周年記念式典の開催、記念事業として「トレーニングセンター」、「シミュレーション施設」の設置、「老朽化したABC棟の床・壁・照明の改修」、「旧女子寮の新研究棟への改修工事」を計画・実行します。また、変革への意思を明確化したキャッチフレーズ「Transforming Aino Blue 変革する藍野大学」を策定し、大学運営の指針とします。

さらに、内部質保証の実質化と教学マネジメント推進体制を根幹とし、今後も継続的に発展していくため、【教育力】【研究力】【募集力】【連携力】の「4つの力」を基盤とした発展に力を注ぎます。

(1) 内部質保証に関すること（内部質保証委員会）

KPI	2024年度計画
内部質保証体制の確立と認証評価	<ul style="list-style-type: none">・大学基準協会第3期認証評価の結果を踏まえ、改善課題及び指摘事項について検証し、改善する。・ブランディング広報を担当する組織を整備し、大学認知向上の施策を実行する。・自己点検・評価について定期的な外部評価を受審すべく、他大学との組織間連携について検討を開始する。

大学基準協会第3期機関別認証評価受審の結果、1点の長所と2点の改善課題が付されたことを受け、内容の検証及び改善に向けた取り組みを実行する。

改善課題及び是正勧告には至らないものの指摘事項として付された内容についても内容を精査のうえ、改善に向けた取り組みを各責任主体の委員会に指示する。内部質保証としては、「運営会議と内部質保証委員会の役割・権限の明確化」と「事業計画に反映するプロセス・手続きの明確化」について指摘を受けた。役割・権限の明確化については、①年度末に教育実行組織から提出される事業報告を内部質保証委員会が「自己点検評価報告書」としてまとめ、運営会議に報告。②教育研究組織に責任を負う組織として、現在の運営会議から学長企画室に移行することを検討する。事業計画に反映するプロセス・手続きの明確化については、中期計画の達成に向けた各委員会の進捗状況を Slack にて共有される各議事要旨を事前に確認し、月1回開催する内部質保証委員会で必要事項を確認のうえ、方策について協議する。

入学試験・広報委員会の機能を入学試験と学生募集に関わる委員会とブランディング広報を担当する組織体に整備し、学生募集と大学の認知向上の両面から広報施策を実行する。

また、自己点検・評価の定期的外部評価受審方法について保健衛生学関係を有する他大学の有識者と組織間連携について協議するなど検討を開始する。

(2) 教育研究組織に関すること（内部質保証委員会）

KPI	2024年度計画
国家資格に拠らない新たな学部の設置	<ul style="list-style-type: none">・2025年度4月健康科学科開設に向け準備を進める。また、健康科学科設置に並行し、well-being 促進を目的とする大学発ベンチャ

1. 事業計画の概要

	一企業を立ち上げる。
看護学研究科後期博士課程の設置	・学内に博士課程後期課程を設置構想について、看護学研究科と健康科学研究科で検討を開始する。
リハビリテーション分野研究科の設置	・2024年度健康科学研究科開設に伴い、学事を滞りなく進行するとともに、次年度学生募集について計画し、募集開始する。
看護学研究科助産師課程の設置	・2026年4月設置に向けて準備を進める。

健康科学科については、2025年4月開設を目指し、3つのポリシー、カリキュラム、教員配置、トレーニング施設設置、転学科を念頭においた単位互換制度などの準備を進める。また、健康科学科の付加価値を高めるために、筋力トレーニング、スタジオレッスンを通じてひとの Well-being をサポートする、教員と学部及び研究科学生が運営する大学発ベンチャー企業を立ち上げる。健康科学科開設と並行して1年過程で臨床工学士を育成する専攻科設置について検討する。

博士課程後期課程設置については、看護学研究科と健康科学研究科で検討を開始する。

リハビリテーション分野研究科設置については、2024年度入学生が2年もしくは3年後に全国及び国際学会誌に投稿しうる修士論文を作成できるよう、研究計画書作成から修士論文発表会までのプロセスを見直し、設定する。また、次年度学生募集について計画を立て、全国の学部学生を対象に募集を開始する。

看護学研究科助産師コースについては、2026年4月設置を目標に、カリキュラム、担当教員、臨地実習施設、必要備品と物品などについて準備を進める。さらに、2025年度に教職課程（専修免許状取得）を設置する計画を進める。

(3) 教育課程・学習成果に関すること（教務委員会）

KPI	2024年度計画
アセスメントプラン（学習成果の評価指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約・検証 ・MLSTの結果の集約と検証 ・アセスメントプランの改定 ・これらの学習成果を踏まえた2025年度カリキュラム改定に向けての準備とDPの検討
シンメディカル授業の推進（多職種理解を通して職業の専門性を知り、連携した問題解決の方法について討議・学習する授業）	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度のシンメディカルI～IVの準備と実施 ・シンメディカルI～IVの学習到達度評価を見直し、授業内容、評価の再検討を行い、アセスメントプランの改定に反映
国家試験100%合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の2023年度の結果の集約と対策の強化
4年卒業率の向上・退学率の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の2019年度入学生以降の卒業率、退学率の推移を集約 ・各学科の退学者の理由の集約 ・各学科の成績不良者、進路変更希望学生の対策検討
累積GPA分布による改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度GPA分布表の作成
卒業時アンケートの活用並びに満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時アンケートの集約と分析 ・分析結果を教員間で共有し、満足度の低い点について集約し、改善に向けて検討
TOEIC試験スコアの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC実施の必要性について検討

I. 事業計画の概要

アクティブラーニングによる授業比率	・アクティブラーニングの授業形態、60%以上の維持
海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実	・国際医療研修の実施
データサイエンス教育の強化	・FDの実施 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請 ・授業などのDX化の促進
学修行動調査（授業時間・態度）	・1～4年生の学修行動について調査の集約と分析

2023年度卒業生を対象とした学習到達度評価を行い、問題点について検証する。学修行動調査の結果もふまえ、アセスメントプランの改定を行う。2020年度の新カリキュラムから開講しているシンメディカルについては、2023年度で1年～4年まで一通り実施し、シンメディカル授業の4年間の学習成果も検証しながら、2024年度以降の学習内容、学習到達度の評価を検証も実施する。

国家試験合格率については、各学科の4年次のカリキュラムの違いもあるが、2023年度の結果を集約し、対策に関する情報共有を行い、各学科の対策に活用するよう促進する。

4年卒業率の向上、退学率の減少に関しては、入学定員の増員による学力低下の入学生の割合増加の影響などを検証し、退学率・休学率の増減について集約し、その理由などについても情報収集を行う。累積GPAや卒業時アンケートの結果もふまえ、よりより教育課程改定、授業方法、学習支援体制を検討する。

国際交流に関する事項は、2024年度は2023年度より再開した国際医療研修の実施を予定している。今後の海外提携大学の多様化、短期留学制度の充実についても検討する。それらをふまえてTOEIC試験スコアの向上については引き続き実施の必要性について検討する。

アクティブラーニングの授業比率は60%以上を維持しており、今後も引き続きアクティブラーニング授業を推奨しながら、深い学びを促進する授業方法について、教員間での情報共有も行う。

新たな課題として、2024年度は、データサイエンス教育について、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請を行う予定であり、2024年度以降も引き続きデータサイエンス教育の検討を行う。

学修行動調査については、引き続き1年～4年までの学生の調査結果を集約し、全国との比較も通して検討する。

(4) 学生の受け入れに関すること（入学試験・広報委員会）

KPI	2024年度計画
高大連携協定校の増加	・現状の7校に加え、新たに2校増加を目指す。 ・本学入学志望に繋がる効果的な高大連携内容について検討する。
内部推薦制度の構築	・明浄学院高等学校看護メディカルコース特別内部推薦を実施 ・総合キャリアコース特別内部推薦について検討
志願者倍率の増加	・大学志願倍率2.8倍を目指す。 ・入試区分別定員数を再検討

1. 事業計画の概要

入試区分別成績状況、退学率	<ul style="list-style-type: none"> ・1年終了時の入試区分別平均GPAが、(全体平均 GPA-0.35)以上であることを目指す。 ・1年終了時の退学率 1.5%以内を目指す。
修学支援制度の利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・特待生制度(授業料減免) 7名 ・自宅外通学者奨学金給付制度 7名

2023年度に続き高大連携協定校増加を目指し、医療系大学を目指す生徒を擁する高校に対して藍野大学の魅力を伝える広報活動を積極的に展開していく。既に連携協定を結んだ高校については、本学入学志望に繋がっているか検証し、効果的な連携実施内容についても再検討する。

明浄学院高等学校看護メディカルコース特別内部推薦を実施し、本学への進学を想定した連携講義、その他交流の充実を図る。また、総合キャリアコースの特別内部推薦について検討する。

近年の年内入試による入学者数増加の傾向を鑑み学校推薦型選抜入試を重視し、特に指定校推薦による入学者について3割以上の定員数確保を目指した活動を実施する。

多様な入試区分からの入学生に対し、医療系大学の学びに対応可能な事前準備(入学前教育)、カリキュラム設定(初年次教育の充実)を実施していることを広く伝える。また、本学の特色であるシン・メディカル入試を含む各入試区分において、退学率・成績傾向に偏りが生じていないことを継続的に確認し、入学試験において生徒の学力・適正を正確に図る工夫を引き続き検討する。

修学支援制度の周知徹底により優秀な学生の確保に努め、新たな成績優秀者支援制度についても検討する。また遠方からの受験者増を目指し、地方入試の拡大、自宅外通学者奨学金の周知・活用を含む広報活動の強化を推し進める。

(5) 教員・教員組織に関すること(教員組織委員会)

KPI	2024年度計画
外国人教員の採用、学生に対する指導	・外国人教員の採用について検討する。
教員評価の実施	・教員評価について検討する。
教員のうち博士学位取得率	・70%以上を目指す。
FD・SD公開研修会の実施(参加率)	・教育の質的向上を目的とした演習を含むFDSD研修会を予定し、90%以上の参加率と効果確認を目指す。
授業評価アンケートの活用並びに満足度の向上	・2023年度の授業評価及び卒業時アンケートの検証及び経年比較分析

外国語科目を担当し、且つ、外国からの学生対応にあたる international student office を管理できる外国人教員の採用について検討する。

教員評価については、現在教員の新規採用及び昇任人事の基準として用いている研究業績表及びブルーブリック評価表を見直す。

教員の博士学位取得率を70%以上に向上するため、博士課程後期課程に在籍する者のみを対象とする学外研修日システムについて検討する。

FDSD公開研修会については、教育の質的向上を目的とした演習を含むFDSD研修会を計画し、90%以上の参加率を目指す。さらに、FDSD研修会の効果判定方法について検討する。

I. 事業計画の概要

授業評価アンケート及び卒業時アンケートを分析及び経年比較し、FDSD研修に繋げる。

(6) 学生支援に関すること（学生委員会）

KPI	2024 年度計画
学習支援システム (manaba) の活用	<ul style="list-style-type: none"> manaba を用いた学部全体としての学力調査の問題作成と実施方法の検討・実施 学部全体の学習支援体制の抜本的な改革案の策定
求人情報システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時アンケートの内容を踏まえ、「求人検索NAV I」の利便性の改善と利用率の向上
キャリア講座の設置	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施中の「認定看護管理者教育課程」および申請中の「認定理学療法士教育機関」に加え、新たなキャリア講座の設置を模索し実施を検討する。
卒後研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 校友会との連携研修会の実施方法・内容を再検討し、参加者数の増加に努める。 コロナ禍で中止中であった卒業生対象の研修会を各学科（学部）で再開する。
施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 2024.4 より開始のカフェスペースの学生（教職員含む）の利用状況把握 キッチンカーの利用状況の把握と学生アンケートに基づくサービスの向上(設置場所や実施業者の見直し)
バイク通学制度の整備	<ul style="list-style-type: none"> 2024.4 より開始したバイク通学における制度の検証と利用状況の把握 2025 年度には駐輪場の整備を再検討する。

2024 年度より新たに実施予定であるバイク通学の運用状況を確認しながら、諸問題に対し随時対応する。また、導入に対する効果判定（学生アンケート等）を行う。その他にも、MLCのカフェスペース、キッチンカーの利用状況の把握も同時に行い、学生生活環境の改善に向けた施設の有効活用への取り組みを推進する。その他、「学生懇談会」を初めとする学生の要望を収集する場（会議への参加等）を計画し、学生と意見交換することにより大学の強み、改善点を見出し、学生支援の質向上をはかる。

学習支援としては、学習内容のみならず様々な悩み（問題）を持つ学生に対する、抜本的な学習支援方法を模索し、学生が安心して勉学に集中できる環境づくりの構築に着手していく。「卒業後の継続的な支援によるシームレスな学びの場の提供」をさらに進めるべく、全学部でのキャリア講座（キャリア開発・研究センターとの共催含む）での資格獲得へのサポートを推進する。

(7) 教育研究等環境に関すること（教育・研究推進委員会）

KPI	2024 年度計画
科学研究費補助金採択数	<ul style="list-style-type: none"> 新規採択数 10 件程度 科研費採択者の研究内容をホームページで紹介 採択数増加のために申請内容の事前チェック体制を強化
科研費以外の競争的研究資金採択数	<ul style="list-style-type: none"> 新規採択数 5 件程度 競争的資金募集情報の Slack での提示 競争的資金獲得研究者の氏名とテーマをホームページで公開
受託研究、奨学寄附金件数	<ul style="list-style-type: none"> 新規採択に向けての研究強化 産学協同事業の展開とトランスレーショナルリサーチの強化

1. 事業計画の概要

研究員、客員研究員の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・新規研究員、客員研究員の選出 ・連携企業における研究員の受け入れ ・研究支援体制の構築
特許出願及び取得	<ul style="list-style-type: none"> ・新規特許取得に向けての研究推進
中央研究施設による論文発表及び知的財産の管理及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ・中央研究施設における研究成果の発表（5編程度） ・中央研究説における研究活動の広報強化 ・学部生や大学院生の研究推進 ・高大連携による中央研究施設の利用推進

教員の研究活動活性化を図るため、引き続き科学研究費補助金応募の義務化は継続とし、アクセプトされた論文の紹介や学会活動での受賞者の紹介など大学ホームページを研究に対しての広報に活用する。また、中央研究施設を大学院生の研究、学生の卒業研究支援や高大連携の場として活用する。Slack 等を利用して研究助成の情報を共有し、科学研究費等の外部研究資金の獲得を強く進めるとともに獲得に向けたFDSD研修会を行う。外部研究資金を獲得した教員のうち、子育てや介護のために研究時間に制限がある教員をリサーチし、支援体制を構築する。

(8) 社会連携・社会貢献（社会貢献委員会）

KPI	2024 年度計画
提携プロスポーツ団体の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにプロスポーツ団体（障がい者スポーツを含む）との連携を検討
健康増進事業の連携先からの評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・実施プロジェクト前後で自治体と効果検証（会議等）を実施 ・自治体や介護予防事業への大学教員及び学生の参画
市民公開講座の参加実績増加	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人藍野大学内で共催あるいは学部レベルでの講座を企画実施し、合計 200 名の参加を目標とする。
藍野グループ（病院等）で開催する市民公開講座への学生・教員の参加数	<ul style="list-style-type: none"> ・藍野大学教員及び藍野病院スタッフの共同による市民公開講座やイベント（講座等）を実施 ・教員だけではなく学生の参加を促す。
藍野グループ共催イベントへの学生参加	<ul style="list-style-type: none"> ・藍野大学教員及び藍野グループスタッフによる太田地区の高齢者を対象とした身体機能測定会を実施 ・藍野病院「あいのまちの保健室」に大学教員及び学生参画する。
包括連携協力協定	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力協定を締結した施設との具体的な活動を検討する。

2024 年度についても学科・学部単位でのイベントを実施するだけでなく、藍野グループ共催でのイベントを企画し、実施する。具体的には、看護学科「茨木市ダウン症児親の会（でんでん虫の会）託児活動、高槻市磐手子どもまつり」、理学療法学科「スポーツセミナー、太田地区身体機能測定会」、作業療法学科「おやこ de-Aino かふえ、太田地区（元気はつらつ健康体操）」、臨床工学科「大阪府医師会フィルハーモニーコンサートにおける（人工臓器の展示と説明）」などに参加や開催を計画している。また、学部単位や藍野グループ共催活動として、市民公開講座や地域貢献活動「子育てサロン、茨木市×藍野大学連携講座、3's Café、あいのまちの保健室」に学生の参加を促す。

また、自治体、保健医療福祉機関等との連携を図り、教員だけではなく学生がイベントへ参加できる機会を積極的に設ける。

さらに、包括連携協定をすでに締結している施設に対して、具体的な活動内容を検討するとと

1. 事業計画の概要

もに、新たな連携協力協定の締結を目指す。

(9) 藍野大学中央図書館

KPI	2024 年度計画
市民に開かれた図書館として、市民開放	・館内レイアウトの見直し
書籍に対する興味・関心の向上	・図書館主催行事の積極的開催 ・医療系図書に加え一般図書の鮮度および展開強化 ・電子リソース利用強化の施策

医療系のみならず一般図書の開架スペース拡大が市民開放には必要不可欠と考え、2023 年度に空調工事が完了した3階の小会議室を創作者寄贈図書スペースとして展開するなど、一般図書配架スペースを拡大する取り組みを行っている。

また、2023 年度に引き続き「ランチタイム図書館」といった移動図書館の展開や人気図書の学生による投票、新たな企画等を行い学生の図書への興味関心を高めていく取り組みを実施している。電子リソース利用促進のため学生対象のガイダンスや文献検索の説明会をより多く実施している。

(10) キャリア開発・研究センター

KPI	2024 年度計画
認定看護管理者教育課程	・セカンドレベル定員充足を見据えた新たな募集対象施設の拡充 ・近隣病院 25 施設以上への訪問活動のさらなる充実
認定理学療法士養成講座の開設	・認可を受けての確実な講座開講の実現 ・本格的な募集活動による講座定員の充足（40 名）
大学院進学者の増加	・過去の修了生に対するDMおよび募集案内資料の送付 ・キャリア受講生からの進学者を1名以上確保
病院独自奨学金の獲得	・包括連携協定病院を念頭に置いた奨学金制度創設の本格検討 ・新ホームページにおけるランディングページの設置
公開講座	・あいの祭とコラボした卒業生対象講座の継続実施 ・受講生および医療従事者を対象としたスキルアップ講座の実施

キャリア開発・研究センターの事業のひとつである「認定看護管理者教育課程」セカンドレベルの定員充足（35 名）を実現するため、新たな施策として近隣の訪問看護ステーションを募集対象施設（139 件）として追加する。また、新たに10月に開講する「認定理学療法士養成講座」に関して、定員の充足に向けた募集活動を本格化し、本学実習施設や理学療法学科卒業生を対象に精力的な案内を行う。

さらに、本学大学院への進学を促進するため、現受講生への説明のみならず、これまでの講座修了生を対象とした募集案内資料の送付を新たに実施することで希望者の掘り起こしを図る。

講演会・セミナーについては、藍野大学校友会との連携をさらに強化して関心をそそる「卒業生対象セミナー」を継続して実施するとともに、受講生や近隣の一般医療従事者をターゲットとしたニーズに応えられるスキルアップ講座を企画・立案する。

1. 事業計画の概要

加えて、「スカラシップ就学支援」事業として位置付けている病院独自の奨学金確保に向けては、改めて仕切り直しの年度とし、新たな体制による本格的な制度設計の検討に着手する。

1. 事業計画の概要

3. びわこリハビリテーション専門職大学

(1) 滋賀県医療福祉拠点整備計画への参画（大学運営会議）

KPI	2024 年度計画
滋賀県医療福祉拠点整備計画の事業者として参画	2024 年度に実施されるヒアリング調査、事業提案を行い、12 月に決定される当該計画の事業者として指名されることを目標とする。

滋賀県医療福祉拠点整備計画は、滋賀県庁の隣接地に看護師養成学校、歯科衛生士養成学校、リハビリテーション系大学院を設置する計画であり、本計画に参画することが 2024 年 1 月の理事会において決定された。そのことを受け、事業計画案の作成、事業者としての指名を受けることを目標とする。

(2) 教育の内部質保証、教育成果の可視化の構築（自己点検・評価委員会）

KPI	2024 年度計画
内部質保証体制の構築・運用	策定されたアセスメントプランにより 4 年間の評価を行う
IR 機能の強化、IR 情報の公開	完成年度を迎え、4 年間のデータ分析を行い、公表する。
教育成果の可視化	学習行動調査、授業評価アンケート、卒後アンケートにより教育成果の可視化を図るため、授業評価の回収率を高め、より多くの学生による意見を集約して信頼性の高い教育成果の可視化に努める。
国家試験合格率 100%の達成	国家試験対策を入学時から開始し、国家試験合格率 100%を目指す。
専門職高等教育質保証機構分野別認証評価の受審	法律で定められる 5 年に 1 度の分野別認証評価を受審し、適合の評価を得る。

ア. 高度な実践力と豊かな創造力を備えた医療人の育成

完成年度を迎え、新たな学科の開設に伴い 3 つのポリシーの見直しを図った。「高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身につけた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献する」という本学の教育目的をさまざまな角度から検証し、点検・評価し、完成年度以降の教育体制について引き続き整備を進めていく。

また、2024 年度は分野別認証評価を受審する年度であり、開学から 4 年間の教育研究活動の評価を行い、改善への取り組みを進め、適合の評価を得ることを目標とする。

具体的な教育活動については次のとおりである。

(ア) 少人数での教育活動を推進

担任制度に加えて、少人数担当制（チューター制度）を今年度も継続して実施する。学生の出席や学習状況、不安などの情報や保護者への対応については学年担任が担当する。定期的に担任と担当（チューター）が情報交換を行うことで、問題を抱えた学生に対して素早い対処ができる体制を整えるとともに、定期的に保護者と連絡し、学生の状況についての情報交換を行っていく。

(イ) SNS を使った学生指導

教員と学生が定期的に話し合う機会が増えるが、そこで対処した内容については、manaba

1. 事業計画の概要

に時系列に記載し、他の教員にも共有することで問題を抱えた学生を把握しやすく、指導がスムーズに行える。また、昨年度導入された Slack をより効果的に使用し、学生とのコミュニケーションの強化を図る。

(ウ) 学習成果の検証・可視化

入学前教育及びテストを行って、学生の入学時の学習状況を把握し、入学後は担任、チューター及び学習支援センターが協力して、manaba を活用した経時的な介入方法を模索する。

(エ) 国家試験への取り組み

3 年生から始めていた国家試験への取り組みを、入学時から取り入れ国家試験合格率 100% へ向けた取り組みを継続して行う。国家試験対策としては、国家試験対策委員会が中心となって、担任と少人数担当制（チューター制度）をはじめ、全教員が協力して少人数個別制の国家試験対策教育を実施し合格 100% を目指す。

そのための学習支援として、4 年生には国家試験対策の学習支援システムである宅ドリル便を利用できるようにする。また、全国規模の国家試験模試を複数回受験させ、学生のレベルの把握、指導方法の修正を行う予定である。

(3) 専門職大学ならではの実践的な職業訓練（教務委員会）

KPI	2024 年度計画
各フィールドを利用した臨床実習	環びわ湖大学・地域コンソーシアム 大学地域連携課題解決支援事業への学生の参加に加え、近郊の地域のニーズに即した地域連携の有り様を教員と共に実践を通じて学ぶ場を強化する。

自治体との連携協定（(4) 参照）や環びわ湖大学・地域コンソーシアムとの連携事業などを生かし通常の医療機関以外のフィールドにおける実習を漸進的に進めていく。

(4) 地域でリハビリテーションを実践できる人材の養成（大学運営会議）

KPI	2024 年度計画
教育課程連携協議会の開催	9 月と 3 月に実施する

地元行政機関との連携協定に基づき、今後、教員の指導のもと、学生が地域に出向き、医療や福祉に関係する活動を取り入れていくことも積極的に進める。専門職大学として「教育課程連絡協議会」を開催しているが、専門教育について多くの意見をいただき改善に反映させていく。

(5) 社会に必要とされる教育・研究の実行

ア. 開かれた大学として卒業後の知識のアップデートの支援（実習支援センター）

KPI	2024 年度計画
滋賀県理学療法士会、作業療法士会との研修会の共催	
臨床実習指導者講習会の実施	理学療法士臨床実習指導者講習会を年 1 回、作業療法士臨床実習指導者講習会を年 1 回実施する。
スキルアップセミナーの実施	2022 年度より開始したスキルアップセミナーを 2024 年度も継続して行う。

1. 事業計画の概要

(ア) 滋賀県理学療法士会・滋賀県作業療法士会・言語聴覚士会との研修会の実施

滋賀県における理学療法士・作業療法士の養成だけでなく卒後教育の中心として、また理学療法士・作業療法士の資質向上の活動を滋賀県理学療法士会・滋賀県作業療法士会と協調して行っていく。2024年度は言語聴覚療法学科が開設されることから、言語聴覚士会との連携を強化し、言語聴覚士に対する卒後教育についても検討を進める。

(イ) 臨床実習および評価・見学実習

2022年度の臨床実習から指定規則の改正により臨床実習指導者の資格の厳格化が始まった。このため、臨床実習施設を増やすだけでなく、新しい指定規則に沿った臨床実習指導者を養成するために、臨床実習指導者講習会を継続して開催する。

(ウ) 臨床スキルアップセミナーの開催

2022年度から開始した臨床実習指導者向けの臨床スキルアップセミナーを2024年度も開催する。2024年度からは卒業生に対してもセミナーを解放し、卒後教育のひとつとして提供できる体制を整える。

イ. 教育力、研究力向上のための組織的取り組み（FSDS 推進委員会）

KPI	2024年度計画
FD・SD 研修会の実施（参加率）	年3回実施予定
科学研究費補助金応募数（採択数）	15件以上（3件）
科研費以外の競争的研究資金採択数	2件以上

広くリハビリテーションの領域において先進的な研究を推進して、社会の医療・福祉の発展に寄与することを目的に、基礎的研究と実践的研究を推進する。その取り組みの一つとして、科学研究費補助金、その他外部資金の獲得をはかる。

(ア) FD・SD 研修会の実施

2024年度は教育、研究、大学運営・制度について年3回程度実施する予定である。

(イ) 外部研究資金

2024年度の科研費への応募は13件であり、そのうち1件（基盤研究（C））が採択された。その結果、2024年度は、研究代表者3件（うち新規1件）となった。科研費以外の外部研究資金についても獲得を推進する。

(ウ) 成果公開

大学発行の「紀要」に関しては、「びわこ健康科学」（Biwako J Rehab Health Sci）というJ-Stage 掲載学術誌（オンラインジャーナル）として発行された。2024年度には第3号の発刊を目指し、学内外から論文や教員の実践活動の成果報告などの応募を募る。和英双方の論文を掲載、学外者を含む査読を経て掲載されることになる。

(エ) 図書館の機能強化

理学療法、作業療法関係図書だけでなく、言語聴覚療法学科の開設に伴い、言語聴覚関係の

1. 事業計画の概要

図書の充実を図る。また、通常の図書だけでなく、メディカルオンラインや医中誌などとの契約を継続するとともに、オンライン提供されるデジタル資料を充実させる。

(6) 様々な学生のニーズに対応できる環境の整備

ア. 施設更新による魅力あるキャンパスづくり（大学運営会議）

KPI	2024 年度計画
キャンパスの改修、機器備品の充実	言語聴覚療法学科設置に伴う実習室の設置、機器備品の購入
びわこ東近江キャンパスの改修	言語聴覚療法学科の 3、4 年次で使用する教室と防音室等の実習室の整備を行う。
八日市キャンパスの充実	びわこ八日市キャンパスが開設し、機器備品、図書の充実に努め教育環境の充実を図る。

びわこ八日市キャンパスの開設、言語聴覚療法学科の開設に合わせて言語聴覚療法学科の機器備品の購入を進める。

また、びわこ東近江キャンパスにおいても引き続き教育環境の整備、施設設備の更新を進める。

イ. 独自の就職支援システムを活用したキャリア支援（就職支援委員会）

KPI	2024 年度計画
求人情報システムの更新	完了

2023 年度は 1 期生が卒業生した。その結果から、本学のキャリア支援体制の評価を行い、改善に取り組むとともに、2024 年度もキャリア支援センターを通じて計画的に支援する。

ウ. 合理的配慮が必要な学生への支援体制の強化（学習支援センター）

KPI	2024 年度計画
体制の整備・運用	2023 年度の支援計画を評価し、改善・充実を図る。

合理的配慮を希望する学生も増加傾向にある。2022 年度から学習支援センターを設置、9 月には公認心理士のカウンセラーを配置し対応を進めてきた。

2023 年度は、学生の要望を理解し、それにあつた支援計画の策定、支援を行ってきた。2024 年度も 2023 年度に行ってきた合理的配慮の経験を基に、他の学生の教育支援にも応用できるように学科と学習支援センターの連携を強める。

(7) 社会連携の深化（大学運営会議、入試広報委員会）

ア. 地元自治体・各種団体・組織・スポーツチーム等との連携強化

KPI	2024 年度計画
地元自治体との包括協定の締結	滋賀県、東近江市、日野町と協定を締結。 協定に基づき、連携事業を推進する。 また、新規に甲賀市との協定締結に向けて協議を続ける。

1. 事業計画の概要

スポーツチーム・各種団体・組織等との協定締結	理学療法士会と共同で中高生、保護者への広報及び啓発活動の実施。 アカデミックパートナー協定を結んでいる滋賀レイクスターズとは、学生ボランティアの派遣、インターンシップの実施、選手又は運営スタッフからの特別講義を予定している。
------------------------	---

(ア) 行政機関

・滋賀県

2024年度は、障スポに向けての各競技団体の練習会に、学生ボランティアの参加を積極的に促し、障がい者との交流を図る。また、2025年度の国スポ・障スポの開催に向け、学生ボランティア養成にも取り組んでいく予定である。

・東近江市

2021年2月に締結した連携協力に関する協定に基づき、2023年度も公開講座や、地域強化推進事業「まちリハ」を共同で実施する。

具体的には、理学療法学科・作業療法学科と東近江市で、それぞれで新たな事業を計画し、地域高齢者のフレイル予防に教員、学生および東近江市の保健師で積極的に関わっていく。

東近江市が主催している、地域強化推進事業の「まちリハ」に、今年度も教員を派遣し、各地区の高齢者の体力測定を行う。2023年度に続き、理学療法学科の教員による体力測定及び評価、作業療法学科の教員による認知症予防講座を実施する予定である。

2020年度から北坂地区の地域高齢者に対して実施している「びわこいきいき体操」を、2024年度も月に2回程度実施し、健康寿命の延伸に協力するとともに、大学教員や学生と地域高齢者との地域交流を行い、共生社会の実現に向けて活動を進めていく。

東近江市で、スポーツ活動を実施している小中学生に対して、東近江市のスポーツ課とミズノとの共同でスポーツフェスタを開催し、小中学生の体力測定を実施する。

・日野町

2020年12月に締結した地域連携・協力に関する協定に基づき、地域包括支援センターの活動へ引き続き参画を予定している。具体的には、転倒予防といった運動教室への指導・助言、さらには自宅環境の調整や動作指導といった訪問事業を随時行う。また、これらの介護予防事業とは別に、地域推進事業として地域ケア個別会議への参加・助言や、その運営母体となる地域ケア推進会議へも参加を予定している。

・甲賀市

2023年度には「甲賀市在宅医療と介護市民講演会「肺の健康と呼吸リハビリテーション」～肺呼吸の病気とうまく付き合うためのメッセージ～」を甲賀市と協同で実施した。2024年度には協定締結に向けてより具体的な取組を進めていく。

(イ) 団体・企業等

・滋賀県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会

(2) で触れたことにあわせ、中・高校生や保護者に対して積極的な広報活動を展開して、理学療法士・作業療法士についての啓発活動を共同して行っていく。

また、言語聴覚療法学科の開設に伴い、滋賀県言語聴覚士会とも協定を結ぶことを検討して

1. 事業計画の概要

いる。

- ・滋賀レイクスターズ

アカデミックパートナー協定を結んでいる滋賀レイクスターズとは、インターンシップ、選手による特別講義や試合の運営スタッフとして学生を派遣するなどの連携を進めて行く。

(8) 学生の受け入れ、高大連携の充実（入試広報委員会）

ア. 学生募集の戦略的取り組み

KPI	2024 年度計画
志願者倍率	(名目) 志願者倍率を理学療法学科 2.0 倍、作業療法学科 1.5 倍以上
滋賀県外からの入学者の比率	志願者の 12%以上 (2024 年度は約 5%)
収容定員充足率	85% (2024 年 4 月予測 81%)

(ア) 社会人入学者の志願者増

滋賀県理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会との協働での病院・福祉施設等へのポスターの配布による社会人への継続的アプローチを行い、社会人入学生の志願者増を目指す。

(イ) 入試制度の見直し

- ・総合型選抜の試験内容の見直し

受験生がより受験しやすく、相互理解を得た上で、出願を行っていただくために、名称の変更と内容の見直しを行っている。名称の見直しは以下のとおりである。

名 称	変更前	変更後
期 間	エントリー期間	相談会エントリー期間
試験日 (1 回目)	一次選考	相談会
試験日 (2 回目)	二次選考	試験日

従来であれば、1 次選考の時までに志望学科を選択していたが、2023 年実施の入試からは、上記記載のとおり、相談会を開催した。2024 年度も受験生が入試や入学前に不安に思っていることや気になることなど解消し、安心して出願することができるようにする。相談会参加後には出願時に、相談会時に志望していた学科から変更することも可能とし、より受験生に選択の幅を与え、入学後のミスマッチ等の防止につなげる。

(ウ) 指定校推薦入試対象校のエリアの拡大

指定校推薦入試対象校のエリアの拡大を行い、志願者数の増加を図る。特に作業療法学科では、重点地域として東近江市、甲賀市、長浜市、米原市を設定し、6 月から 7 月にかけて教員訪問や模擬授業の提案、進路指導の教員への作業療法士という仕事について理解を促す。

(エ) オープンキャンパスの拡充

オープンキャンパス参加者の出願率は高いため、通常のオープンキャンパスに加えて、学校単位での見学会やミニオープンキャンパスの実施など、オープンキャンパスの参加者増を目指す。

1. 事業計画の概要

イ. 高校との連携協定による専門職大学の認知度向上

KPI	2024 年度計画
高大連携校数	5 校 (2024 年 3 月時点 4 校)

現在 4 校と協定を締結しているが、県内が多く、周辺府県のエリアも増やしていく。

ウ. 明浄学院高等学校からのグループ内進学強化

KPI	2024 年度計画
高大連携協定の締結、内部進学者の受け入れ	出張講義等の実施。

出張講義、学校見学などを通じて本学への関心を高め、進学を促す。

エ. 滋賀県理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会との共同イベントの実施

職業理解を目的としたイベント実施を 6 月に予定している。高校生だけではなく、中学生、保護者、地域の方への職業認知度の向上を図り、今後の業界の発展、志願者の底上げにつなげる。

I. 事業計画の概要

4. 藍野大学短期大学部

藍野大学短期大学部は、教育理念である「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」を実現するため、2023年度より、新教育スローガンとして「柔軟性のある人へ～傾聴力と説明力～」を掲げ、2024年度は次の点を重点施策とする。

(1) 教育の効果に関すること

KPI	2023年度計画
各講座の設立・運営 【M・HI 研究所運営委員会】	<ul style="list-style-type: none">メンタルヘルス領域における公開講座の開催グリーフサポーター養成講座の開講グリーフケアに特化したカウンセリングルームの設置企画子育て・発達支援領域における学習教材の開発
月平均利用者数 【M・HI 研究所運営委員会】	<ul style="list-style-type: none">あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションの月平均利用者数の増加
内部質保証システムによるPDCAサイクルの実行 【内部質保証委員会】	<ul style="list-style-type: none">新たに構築された内部質保証システムに基づき、3つのポリシーや教育課程、教育研究活動の有効性の検証を行う。短期大学基準協会第3期認証評価を受審する。
1学科2専攻課程への改組の届出、組織の改変	<ul style="list-style-type: none">全国的な短期大学の志願者減を受け、組織の効率化の検討1学科2専攻課程への改組に向けて、カリキュラムの確認、教員配置の検討届出後、速やかに学生募集を開始する。
3年課程から2年課程への定員振替	<ul style="list-style-type: none">第二看護学科の志願者減を受け、定員振替の検討明浄学院高等学校看護メディカルコースとの6年一貫教育の検討

<概要>

【M・HI 研究所運営委員会】

2025年4月の阿倍野キャンパス移転に向け、メディカル・ヘルスイノベーション研究所の運営及び体制について改めて検討する。メンタルヘルス領域においては、加齢に伴う様々な問題に関する公開講座やグリーフサポーター（傾聴ボランティア）養成講座について富田林市との共催による開催を目指す。公開講座の開催に加えて、リーフレットの作成などによる啓発活動も行う。また、グリーフケアに特化したカウンセリングルームの設置については、移転後の具体的な運営方針、設置場所等について引き続き検討する。

子育て・発達支援領域で設立した、あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションにおいては、

1. 事業計画の概要

茨木市や高槻市のスクールソーシャルワーカーなどに向けた営業活動や研修会を開催し、さらなる利用者数の増加を目指す。また、本学や藍野大学、他大学の実習施設として学生の受け入れを継続し、学生の実習の場としての役割を果たす。発達障害、特に注意欠陥多動性障害児に特化した学習教材を開発し、利用者のトレーニングに活用する。

【内部質保証委員会】

機関・学位プログラム・科目の各レベルで行う自己点検・評価を実施し、教育課程や教育研究活動等の質の保証と向上に向けて、PDCA サイクルが機能しているか検証を行う。その結果、抽出された課題を明らかにし、改善・改革を推進する。短期大学基準協会第3期認証評価については、自己点検・評価報告書の作成と実地調査を受け、システム全体の自己点検を行う。

全国的な短期大学の志願者減を受け、組織の効率化を推進する。1学科2専攻課程への改組の構想においては、両学科が同一キャンパス（阿倍野キャンパス）へ移転することで教員の協働の推進による教育研究の向上及び組織の効率化を図る。特に、これまでキャンパスが離れており、学生間・教員間の交流が物理的に困難な状況にあったが、移転するに伴い、教職員の配置や、学科ごとに分断されていた取り組みを全学一体の取り組みへ変革し、効率化を図る。また、改組に伴い中断していた学生募集を、届出後速やかに開始する。

第二看護学科においては、明浄学院高等学校看護メディカルコースとの6年一貫教育についての検討を進めて行くとともに、藍野高等学校及び明浄学院高校との高短大の連携を強力に推進する

(2) 教育課程と学生支援に関すること

KPI	2024 年度計画		
公開講座件数 【地域連携推進委員会】	・ 藍野大学と協働した公開講座、セミナー等の開催		
連携強化地域 【地域連携推進委員会】	・ 茨木市、大阪狭山市、富田林市、柏原市とのセミナー等の共催		
人間力向上に向けた研修の開催 【地域連携推進委員会】	・ 学生の地域貢献活動への参加		
シラバス作成マニュアル整備 【教務委員会】	シラバスマニュアルの見直しと記載事項の統一 ・ 授業時間外学習の内容の充実を図る ・ シラバス確認の継続と態勢の見直し		
退学者の減少 休学者の減少 【教務委員会】		退学者の減少	休学者の減少
	第一看護学科	1.5%未満	3%未満
	第二看護学科	5%未満	4%未満
	専攻科	0%	0%

1. 事業計画の概要

入学初年度における休退学率 【教務委員会】		退学率	休学率
	第一看護学科	1.5%未満	3%未満
	第二看護学科	4%未満	3%未満
	専攻科	0%	0%
国家試験合格率 【教務委員会】	第一看護学科	87%以上	
	第二看護学科	93%以上	
	専攻科	100%	

<概要>

【地域連携推進委員会】

2024年度は短期大学部移転前の最終年度であり、2025年度からの新しい環境における地域貢献のありかたを見据えた活動を行っていく。

(1) 市民公開講座

2023年度と同様に藍野大学と連携して地域住民の方を対象に市民公開講座を開催する。現時点（2024年2月）では6月末頃に外部から専門家を招き「パーキンソン病について（仮題）」を計画している。さらに2025年度以降の藍野大学との協働にむけて、講演のリアルタイム・オンライン配信が可能か検討したい。

(2) 大阪茨木キャンパス

長年にわたり大阪茨木キャンパスで実施してきた「子育てサロン“だっこ”」は、この地域での実施が最後となる2024年度も実施する予定である。開催を見送った2023年度には不足していたと思われる広報活動に注力して、より多くの参加者を集めたい。また、新しい試みとして、レストランフーコバーナに来られる高齢者の方を対象に「高齢者の健康相談」として、定期的な血圧測定や健康相談の実施を計画している。いずれの活動においても学生ボランティアを募り開催する。

(3) 大阪富田林キャンパス

例年通り、富田林市、大阪狭山市、柏原市と連携して、各種講座・セミナーを実施する。

2024年7月には大阪狭山市子育て支援講座においてベビーマッサージを実施する。学内においても2022年度より参加している「アイシティーecoプロジェクト」を継続実施する。

2025年度に向けて、阿倍野区役所とのミーティングを行うと同時に、地理的には遠くなるが、今後も引き続いて共同して活動を続けることを、富田林市、大阪狭山市、柏原市と話し合っているところである。

【教務委員会】

シラバス作成において、事前事後学習の内容の充実、作成したシラバス確認の継続を行う予定である。

休学・退学者の減少に向けて、学年担任やチューター制のさらなる充実、保護者との連携を図っていく。

1. 事業計画の概要

国家試験対策においては、各学科の取り組みについて情報共有していくことを継続する。

【学生委員会】

学生相談については第一看護学科・専攻科では通常授業時は週 1 回、第二看護学科では週 2 回の臨床心理士による学生相談室を開設している。3 学科の相談件数においては入学時及び新学期当初の 4~6 月、そして 10 月に集中している傾向にある。また、3 学科ともに個別に教員へ相談に来るケースもあり、その場合、より専門的なかわりが必要なケースにおいては、引き続き臨床心理士と連携して対応していく。相談内容に関してはひとりで複数の相談内容が 3 学科共通してみられる。相談内容で多い項目は、学業のこと、自身の性格に関すること、対人関係のことなどが挙げられ、これらのことは学生相談部会、学生委員会、各学科で共有し、今後も学生対応等の参考にしていく。第一看護学科においては藍野高等学校からの人間関係が形成、継続されており、今年度は障害学生修学支援に関する相談でその関係性が活かされた結果があった。それらを踏まえて、次年度も引き続き藍野高等学校と連絡、報告、相談等の連携や関係性を強化、継続し予防的支援を行っていく。各学科、2025 年度の統合に向けて臨床心理士と学生相談部会との連携を更にもち、学生の動向を見守っていく。第二看護学科においては今年度より学生相談室開設時間を学生が利用しやすい時間帯へ一時的に移行したが、そうニーズはなかった。また、昨年度より週 2 回の開設を実施しているが、総相談件数を今年度と比較（12 月時点）すると、前年比は約 130% と利用率は上がっている。第一看護学科・専攻科における総相談件数（12 月時点）の前年比は 40% で、相談件数は減っている。引き続き、学生相談室利用のアナウンスを学習支援システム（manaba）や学内掲示等で行っていく。また、需要は各学科で隔たりはあるが、学生相談室開設の日数の増加や学生の利用しやすい時間帯の開設など、相談できる場を確保していく。

「卒業時アンケート」「就職先アンケート」については、2023 年度結果は学生委員会で検討し学生生活や学習内容に活かせるよう各学科へ結果内容等を周知している。また、今年度も項目内容については見直しを行い、2024 年度も同様の調査を行う予定である。両アンケートともに回収率が伸びない傾向にあるので、Wed 方式を取り入れている。さらなる回収率を上げるために、可能な領域においては実習に関する施設への訪問時に、再度就職先施設へアンケート協力をお願いをする方向である。

(3) 教育資源に関すること

KPI	2024 年度計画
高大連携協定校の数（累積） 【入学試験委員会】	<ul style="list-style-type: none">・明浄学院高等学校からの内部進学強化・高大連携協定校のさらなる拡大と連携授業等の実施・協定校と緊密な連携を図り、高校生が短期大学部での学びに対する理解を深め、自発的に将来の進路について考えることができるプログラムの推進
明浄学院高等学校から第二看護学科への進学者数 【入学試験委員会】	<ul style="list-style-type: none">・明浄学院高等学校対象の特別入試の実施・明浄学院高等学校からの内部進学者に対する授業料減免制度の実施

1. 事業計画の概要

研究活動の向上 【研究倫理委員会】	<ul style="list-style-type: none">・研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施・科学研究費助成事業への応募書類作成や研究テーマの選定に関する研修の開催
年間の FD 研修開催件数 【FD・SD 推進委員会】	<ul style="list-style-type: none">・教育技法等に関する発表会の開催・教員相互の授業参観の実施・研究倫理委員会と連携した研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施・授業評価アンケートの提出率の向上と活用・ベストレクチャー賞の運営
短期大学の移転 【将来構想検討委員会】	<ul style="list-style-type: none">・阿倍野キャンパスへの引越の実施・学科統合への申請手続き

<概要>

【入学試験委員会】

第一看護学科の特性上、准看護師を養成している明浄学院高等学校 衛生看護科との連携を継続していくことが必須である。2022 年度に立ち上げた短期大学部と高等学校の教育職員による「情報交換会」を定期的に継続させ、相互理解を深めることで、生徒が安心して進学できるよう取り組みを行う。また、2 年間で看護師の受験資格が得られる最短コースの強みを活かし、学生募集を行う。

第二看護学科では、2025 年 4 月 大阪阿倍野キャンパス移転計画を見据え、学生募集を大阪市内、兵庫県、和歌山県、奈良県へより一層強化・拡大していく。

また、高大連携協定校のさらなる拡大を図り、学内進路ガイダンスおよび連携授業等を通じて、高校生が短期大学部での学びに対する理解を深め、自発的に将来の進路について考えることができるプログラムを引き続き推進・強化していく。

さらに、高大接続の一環として明浄学院高等学校から第二看護学科に進学し、3 年間で看護師の資格取得を目指す、新たな進学の道筋として「特別入試」を実施し、内部進学者に対する授業料減免制度を実施する。

入学試験における学力優秀者に対する新入生特待生制度を実施し、学費の負担を軽減し、学業に専念できる環境を提供する。

【研究倫理委員会】

教員各自が研究者としての自覚を持ち、研究倫理とコンプライアンスの徹底を図るため、研究倫理委員会と FD・SD 推進委員会が連携し、全教育職員に対し SD 研修会として、研究者の責務、不正行為の防止、法令遵守に関する研究倫理教育、コンプライアンス教育を実施する。

1. 事業計画の概要

【FD・SD 推進委員会】

教員個人の教育力の向上を目的として、工夫している教授法、授業資料で工夫している内容などについて学内教員が共有する機会の FD 研修会を開催する。また、教育力の向上のために、他の教員が実践している教授法などを実際に聴講する機会として、授業参観を実施する。

各研修会では、聴講するだけで終わらず、ディスカッションやグループワークの形式を用いて、各自の教育力に繋がるような開催形式を取り入れる。

授業評価アンケートの提出率を向上させ、教員へフィードバックを行い、授業の質向上へ繋げる。また、授業評価アンケートの結果から、教員に対するベストレクチャー賞を選出する。

【将来構想検討委員会】

阿倍野キャンパスへの移転については、短期大学部移転プロジェクト会議で検討した結果を踏まえ、講義室・実習室・図書館・教員室等の詳細設計が決定した。2025 年度 4 月から授業開始ができるよう、大阪茨木キャンパス及び大阪富田林キャンパスから阿倍野キャンパスへの機器備品等の移動や教員の引越が滞りなく進むよう、具体的なスケジュールを検討し実施する。

学科統合の届出手続きについては、4 月には文部科学省の大学設置室及び大学教育・入試課短期大学係に必要書類の提出、5 月には文部科学省医学教育課看護教育係に指定申請書等の必要書類の提出をする。

1. 事業計画の概要

5. 明浄学院高等学校

(1) 教育理念・教育方針

学校統合を基軸とし、法人の教育設立理念に基づいた伝統と文化を重んじた教育の展開を目指す。普通科においては、各社会分野で活躍する将来のリーダーの育成を目指し、各コースや個人の特性に応じた進路指導を行い、看護メディカルコースにおいては、藍野大学、短期大学部との学術的高大接続による高度な教育の提供を行う。特に、衛生看護科においては、その設立理念である、「Saluti et solatio aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」という心の通った医療サービスの提供を意味する教育理念のもと、将来を見据えて、生徒一人ひとりの可能性を引き出し伸ばす教育を実践し、高い学力と豊かな人間性を備え、将来の社会に貢献できる自立した医療人を育成することを目指す。また、＜AINO VISION 2030＞の基本方針の一つである、大阪阿倍野キャンパスでの地域医療を担う看護師・保健師人材育成の拠点校となり、医療分野で貢献できる人材育成「AINO NURSE ISLAND 構想」に沿った教育も目指す。

(2) 教育内容

上記、教育理念・教育理念を具現化するために、日常の学校生活の場面において、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高め、自己選択や自己決定の過程において、教職員が慈愛の心をもって適切に指導や援助を行い、教育活動全体を通じ、次の取り組みを行う。

<普通科>

① 個別指導の重点化によるクラス展開と学力向上

- (ア) 生徒個人の自主性、特性を重んじた教育活動の実践。
- (イ) 個人の学力達成の度合を尊重した学習指導の展開と学力向上の実現。
- (ウ) 各人のニーズに適した進路保証の実現。
- (エ) 難関大学への進学希望を有する生徒への水準の高い教育と進路保証の実現。
- (オ) 医療系進学希望生徒への積極的な藍野大学、短期大学への一体化した進路指導。

② 国際性に重点を置いた教育の実践・国際社会で活躍できる人材育成。

- (ア) コミュニケーション能力醸成のための徹底した英語教育の実践。
- (イ) 外部資格（英語検定）への受験指導。

③ 外国人教師の活用と実践的教育の充実

ユネスコスクールとしての国際交流活動の推進。（韓国・台湾・豪州）

<衛生看護科>

① 各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化し、各学年での目標を明確にすることによる生徒の学力向上やスキルアップ

- (ア) 1、2年次における成績下位層の生徒への初期段階でのフォローアップを手厚く行うことで、3年生全体が准看護師試験で8割以上得点できるようにする。加えて、将来受験することになる看護師国家試験合格という長期展望を見据えた指導を行う。
- (イ) 教育体制の強化を図るための教育環境整備を中長期計画に基づき進め、臨地実習における実習施設の確保を行い、そのための実習施設の新規開拓等も積極的に行う。臨地実習の受け

Ⅰ. 事業計画の概要

入れが厳しいことから、現役の看護師による学内実習の充実を図る。

- (ウ) 臨地実習や総合的な探究などの時間を活用し、生徒の意欲、自己学習能力を向上させる効果的で、具体的な支援プログラムを確立する。
- ② 目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を評価することにより学校評価を行い、組織的、継続的に学校運営の改善を図る。また、当初に設定した目標に対する評価結果などの情報公開の実践
- ③ 教員研修の奨励と、授業アンケートなどに基づく教員自身の自己点検を実施し、教育力の向上

(3) 各部署の指導内容

① 生徒指導部

- (ア) 生徒の発達段階を考慮しながら、基本的な社会上のルールや生活習慣を身につけさせ、周囲に配慮して行動できるように指導する。
- (イ) 人間関係や学習・進路の悩み、ストレスなどを乗り越えて、充実した高校生活を送り、将来の希望に向けて歩んでいけるように、スクールカウンセラー（臨床心理士）による相談体制を確立し、担任とスクールカウンセラーの定期的なミーティングを実施する。また、個々の問題に対してきめ細かな対応を行い、退学防止や非行防止にも努める。
- (ウ) 生徒会との連携による挨拶運動、校内美化、身だしなみの指導等を推進する。

② 教務部

- (ア) 授業力の向上達成を企図し、本校の教員構成の中心となる新任・若手教員の土台となる教員研修プログラムの実践と相互授業参観など研修体制の構築。
- (イ) 効果的な学習指導の実践を達成するために、個人の学力・目標に対応した習熟度クラス編成（進学アドバンスコース）、及び ICT を活用した効果的な学習指導。
 - ・上位層生徒の発展的授業の実施
 - ・低位層生徒の学び直し・基礎的学力向上を目指したりメディアル授業の実施
 - ・国家試験対策の実施
- (ウ) 看護系進学希望者に対する基礎的学力確保および進学目標設定のための看護メディカルコースの学習体制の充実および衛生看護科の教育充実。
- (エ) 大学入学テスト（共通テスト）への対応を教科単位で取り組むため、各教科カリキュラムの見直しを積極的に行う。衛生看護科においては、臨地実習、国家試験対策に向けてのカリキュラム充実と効果的な学習の実践を行う。

③ 進路指導部

- (ア) 担任および教科担当と連携するほか、放課後講習などを実施して基本的学力向上に努める。
- (イ) ポートフォリオ（学習プロセスの作成）を学年ごとに積み上げ、進学・進路対策に活用する。
- (ウ) キャリア講演のほか、進路 HR を各クラス担任と連携し実施、進学意識や看護師国家試験

1. 事業計画の概要

対策、意識を向上させるほか、将来的に積極的に社会参画し各領域で活躍できる人材を育成する。

④ 入試広報部

<普通科>

(ア) 総合キャリアコースにおいては、アドミッションポリシーに沿う、志望意欲の高い生徒の確保を目指し、オープンスクールや入試説明会において充実した内容を図り、新設各コースにおいては、専願志望者での180名定員確保を目指す。

(イ) 学習体制、クラブ活動など学校の特徴をアピールするため、入試広報部に限らず、学校全体で広報活動に取り組みを実施する。

(ウ) 学校法人藍野大学との連携により、短大6か年、大学7か年教育を前提とした広報活動も行い、内部進学者の人数を30名以上として入学段階から意識させる広報活動を行う。

<衛生看護科>

(ア) 生徒募集ツールの主軸は、募集イベントアンケートによる参加理由等の分析から、その理由の大半を占めているインターネットを使用したものに移行している。その点から Web 関連の募集ツールのさらなる強化を行う。具体的には、本校ホームページの統合後の全面リニューアル、学校紹介動画の作成配信、Web 広告の実施等を行い、SNS 等による情報発信を絡め、中学生及びその保護者への衛生看護科の認知度のアップを図っていく計画である。

(イ) 中学校訪問についても統合を踏まえ、その周知活動も含めた積極的活動を行う。

(ウ) 学習塾へのアプローチ、「私学展」他外部イベントへのブース出展、中学校への出前授業など、適宜、効果を見極め戦略的に推進していく。

⑤ 総務部

(ア) 学校教育理念に基づいた文化・伝統的教育活動（和歌・俳句・礼法など）を維持し、改革と伝統の両立を目指す。

(イ) 生徒の自主的意識の醸成と活動を意識した各行事の運営取り組みを図り、常に工夫と改意識を持つ。

II. 2024 年度 予算編成

本法人では、今日の私学財政の財務指標の平均値を目標とし、また、定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分「A3」を保持することを目標としつつ、AINO VISION 2030 及び中期財務計画を基に予算編成をしています。

2024 年度予算は、2024 年 4 月より藍野高等学校と明浄学院高等学校を統合することに加え、藍野大学短期大学部の移転統合等を考慮する必要があります。また、びわこリハビリテーション専門職大学に係るびわこ八日市キャンパスの稼働、言語聴覚療法学科の設置や、藍野大学のシミュレーション教育映像室の設置、既存校舎の修繕工事、開学 20 周年記念事業等、様々な事業を予定しています。引き続き、教育環境の充実及び実習環境の良化等の教育の質を保証しつつ、学生確保の強化を推進してまいります。

1. 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	前年度予算	当年度予算	差 異	科 目	前年度予算	当年度予算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,763,250	3,812,676	△49,426	人件費支出	2,546,000	2,565,869	△19,869
手数料収入	71,204	67,250	3,954	教育研究経費支出	1,226,315	1,414,473	△188,158
寄付金収入	20,480	18,570	1,910	管理経費支出	592,272	552,715	39,557
補助金収入	1,138,656	1,083,083	55,573	借入金等利息支出	16,935	45,620	△28,685
資産売却収入	287,450	0	287,450	借入金等返済支出	219,866	246,302	△26,436
付随事業・収益事業収入	112,935	80,020	32,915	施設関係支出	2,985,473	1,145,904	1,839,569
受取利息・配当金収入	2,448	30	2,418	設備関係支出	287,705	393,609	△105,904
雑収入	72,278	71,928	350	資産運用支出	0	0	0
借入金等収入	2,737,000	1,066,100	1,670,900	その他の支出	219,365	201,376	17,989
前受金収入	2,673,844	2,725,397	△51,553	予備費	17,818	20,000	△2,182
その他の収入	451,592	223,500	228,092	資金支出調整勘定	△92,456	△98,451	5,994
資金収入調整勘定	△2,761,434	△2,683,844	△77,590				
前年度繰越支払資金	2,246,952	2,797,363	△550,410	翌年度繰越支払資金	2,797,363	2,774,656	22,707
収入の部合計	10,816,655	9,262,073	1,554,582	支出の部合計	10,816,655	9,262,073	1,554,582

※単位表示は、千円未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合があります。

II. 2024年度 予算編成

2. 事業活動収支予算書

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
		学生生徒等納付金	3,763,250	3,812,676	△49,426
		手数料	71,204	67,250	3,954
		寄付金	20,480	18,570	1,910
		経常費等補助金	849,438	1,083,083	△233,645
		付随事業収入	112,935	80,020	32,915
		雑収入	72,278	71,928	350
		教育活動収入計	4,889,585	5,133,527	△243,942
	事業活動支出の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
人件費		2,546,000	2,565,869	△19,869	
教育研究経費		1,652,260	1,923,446	△271,186	
管理経費		625,429	587,770	37,659	
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計		4,823,689	5,077,085	△253,396	
教育活動収支差額			65,896	56,442	9,454

教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
		受取利息・配当金	2,448	30	2,418
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,448	30	2,418
	事業活動支出の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
		借入金等利息	16,935	45,620	△28,685
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	16,935	45,620	△28,685
教育活動外収支差額			△14,487	△45,590	31,103
経常収支差額			51,409	10,852	40,557

特別収支	事業活動収入の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
		資産売却差額	449	0	449
		その他の特別収入	289,218	0	289,218
		特別収入計	289,667	0	289,667
	事業活動支出の部	科目	前年度予算	当年度予算	差異
		資産処分差額	688,404	0	688,404
		その他の教育活動外支出	0	0	0
特別支出計		688,404	0	688,404	

II. 2024 年度 予算編成

特別収支差額	△398,736	0	△398,736
予備費	17,818	20,000	△2,182
基本金組入前当年度収支差額	△365,145	△9,148	△355,997
基本金組入額合計	△810,024	△233,434	△576,590
当年度収支差額	△1,175,169	△242,582	△932,587
前年度繰越収支差額	△6,491,007	△6,292,823	△198,183
翌年度繰越収支差額	△6,292,823	△6,335,405	42,582

(参考)

事業活動収入計	5,181,700	5,133,557	48,143
事業活動支出計	5,546,846	5,142,705	404,141

※単位表示は、千円未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合があります。

3. 財務比率

(単位：%)

比率	算式	2020 実績	2021 実績	2022 実績	2023 見込	2024 予算	全国平均
人件費比率 (対経常収入比率)	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	56.6	54.4	49.3	52.0	50.0	51.3
人件費依存率 (对学生生徒等納付金比率)	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	71.3	69.6	69.6	67.7	67.3	105.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	31.8	29.8	28.3	33.8	37.5	38.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	13.3	10.2	9.6	12.8	11.4	9.5

※1 経常収入 教育活動収入計+教育活動外収入計

※2 小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位までを記入しています。

※3 全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「私学情報提供システム」上の「財務比率表(大学法人(保健系学部))」における令和4年度の値を記入しています。



藍野大学

〒567-0012 大阪府茨木市東太田 4-5-4



びわこリハビリテーション 専門職大学

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町 967



藍野大学短期大学部

〒567-0018 大阪府茨木市太田 3-9-25 (大阪茨木キャンパス)

〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘 11-1 (大阪富田林キャンパス)



明浄学院高等学校

〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里 3-15-7



学校法人 藍野大学

EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIVERSITY

〒567-0011 大阪府茨木市高田町 1-22